

教育委員会 6 月定例会会議録

日時 令和 8 年 6 月 1 5 日（月） 午後 2 時 3 0 分から午後 2 時 5 5 分まで

場所 市役所 1 1 階北会議室

出席者

（教育委員）

教育長	山中 茂樹	教育長職務代理者	奈良 知彦
委員	畠山 正文	委員	渡辺 照子
委員	北爪 麻衣子		

（事務局）

教育次長	高橋 良祐	指導担当次長	酒井 暁彦
総務課長	加藤 正寛	教育施設課長	柳井 英孝
文化財保護課長	神宮 聡	学務管理課長	織田澤 信司
学校教育課長	小池 英雄	前橋高等学校事務長	岩瀬 孝弘
前橋高等学校校長	高野 裕史	生涯学習課長	宇次 明
教育支援課長	新井 正樹	図書館長	吉田 宣子

【教育長】

これより前橋市教育委員会 6 月定例会を開会いたします。

直ちに本日の会議を開きます。

5 月定例会の会議録については、既に配付済みであります。記載事項に異議等ありませんか。

(異議なし)

【教育長】

異議のないものと認め、承認いたします。

議事は、議事日程第 1 号のとおり進めます。

日程第一。会期の決定ですが、本会議の会期は、本日一日といたします。

日程第二。会議録署名委員の指名ですが、本日の署名委員に畠山委員と渡辺委員を指名いたしますので、よろしくお願いいたします。

日程第三。教育長提出の諸報告について報告いたします。

教育長提出の諸報告

【教育長】

2 件について報告いたします。

1 件目ですが、5 月 22 日の金曜日、市立前橋高校において開校記念式及び記念講演が行われました。式典は厳粛な雰囲気の中で行われ、学校の歴史と伝統を引き継ぎ更に発展していくという学校の想いと勢いを感じるものでした。校歌斉唱の際に、現在の校歌とともに、市立前橋女子高校の校歌が歌われたことも印象的でした。

そのあとの講演会では、前橋出身の映画監督である飯塚花笑さんのお話をお聞きしました。映画監督になるというご自身の夢の実現までの歩みを、ユーモアを交えながら語られるなかで、トランスジェンダーとしてのご自身の経験も話してくれました。全体を通して、自分の好きなこと、夢を貫き通す強さとともに、友達や仲間の支え、周囲の人たちとの交流の豊かさ、そんなお話も大変印象に残りました。

生徒さんも、しっかり話に聞き入ってくださっており、講演後には L G B T Q の友達との接し方や監督の次回作への期待とか、講演の内容に関わる大変深い質問がなされていました。

2 件目ですが、前橋市中学校総合体育大会、中体連の市の大会が、5 月 23 日から始まっています。7 月 4 日（土）の水泳で一区切りとなりますが、資料にある日程でいくつか、私も会場を回らせていただきました。各競技の様子を見学いたしましたが、日々の努力の成果を精一杯発揮し、試合に臨む選手の皆さんのいきいきとしたひたむきな姿に、見ていて引き込まれ、時間の都合で移動しなければならないんですけども、その際も後ろ髪をひかれる思いでした。

大会の運営にあたってくださっていた役員さんや顧問、引率の先生方、熱心に応援する保護者の皆さん、それから選手を支える部員の生徒の皆さん、こういった皆さんの力添えでこういった大会ができているということを、改めて感じました。

部活動の地域展開が徐々に進みつつある中で、数校による合同チームの参加があったり、競技によっては地域クラブの参加を一定の条件のもとで認めたり、運営上の工夫もしていただいていた。今後、部活動の在り方が変わっていったとして、こどもたちが力を発

揮できる場をしっかりと作っていくことが大切だと改めて感じました。

以上、2点を報告させていただきます。

【教育長】

この件について、質疑等がありますでしょうか。
なければ、以上で質疑を終わらせていただきます。

【教育長】

日程第四。その他について報告事項があります。説明をお願いいたします。

その他1 行事について

【総務課長】

資料の1ページをご覧ください。

教育委員会の7月定例会でございますが、7月14日火曜日午後2時30分から、市役所11階北会議室において開催予定です。（ほか、資料の主だった行事を紹介）

その他2 令和8年度第1回前橋市社会教育委員会議の開催結果について

【生涯学習課長】

その他2「令和8年度第1回前橋市社会教育委員会議の開催結果について」ご報告いたします。資料の3ページをご覧ください。

開催日時、場所、出席者については記載のとおりです。議題については、(1)報告として、「前橋市社会教育ビジョン」中間とりまとめについてと、市社会教育ビジョン作成スケジュールについてを報告しました。

(2)の協議として、中間報告書の「次年度に向けた具体的な検討事項」である下記テーマ①と②についてKPT法によるグループ協議をいたしました。

次に結果概要ですが、(1)の報告として、今年の3月31日に提出された前橋市社会教育ビジョン中間とりまとめ報告書について、事務局より説明を行いました。

次に市社会教育ビジョン作成スケジュールについてですが、以下のスケジュールとなりまして、3月に公表を予定しております。

次に(2)の協議内容ですが、次年度の検討事項となっていた4つのテーマの中から、2つのテーマについてグループ協議を行い、それぞれの委員の立場から、様々なご意見をいただきました。

主な意見の概要をご紹介します。

テーマ1では、社会や生活の中にある多様な学びを、価値づけ、社会教育として言語化するためのポイントについて協議しました。

その中で、社会教育の学びには、公的なものや私的なもの、公と民の協働による活動など、さまざまな取組がある点、その内容は資格取得を目指すもの、自らの関心を深める活動、教養を豊かにするものなど、多岐にわたっている点が改めて確認されました。一方で、活動の情報が市民にとって把握しにくい点や、活動するにも移動するにも費用がかかる点・時間にゆとりがない点などの要因が、市民の理解拡大の障壁となっているのではないかというご指摘がありました。

次に、現在は、SNSなどが非常に大きな影響力を持つ時代であり、そのような媒体の方が公的な活動よりも周知されやすく、効果や影響も大きいですが、社会教育の中にこうした

学びが想定されていないのではないかというご指摘がありました。SNSなどから多くの学びが得られているにもかかわらず、その意義が十分に認識されていない点や、負の影響を受ける可能性がある点は今後の課題といえます。

最後に、学びは学校だけのものではなく、学校の課程を終えた後もコミュニティづくりなど組織づくりは続くため、「学び」をキーとして位置づけていくことが重要であり、「教えられる学び」から「自ら学びに向かう」姿勢へ転換するためのエージェンシーも学びの重要な視点であるという意見が挙げられました。

テーマ2では、若年層や一人暮らしなどで社会教育に関わりのない人や興味・関心のない人へのアプローチについて協議しました。

まず、アウトリーチの対象として、不登校や悩みを抱える児童生徒、生活保護受給世帯を含む貧困家庭、一人暮らしの高齢者などが挙げられました。そして、社会教育に関わりが持てない理由として、社会認識が不寛容であったり偏見を持っていたりする点、社会との接点の少ない点、雇用上の問題などが挙げられました。

このような空白層の人は、いきなり生じるのではなく、段階を経て形成されるため、途中過程における課題を着実に解決する必要があるだろうというご意見がありました。また、対象者と直接的な関わりを強化することや、人材・資金・機会の拡充も求められるとのご指摘をいただきました。

また、社会人は時間的余裕がない点や、そもそも接点が少ないことも課題であるとのご意見もいただきました。さらに、実体験が乏しく、課題への対応力が十分に培われていない点も課題としてあげられました。昨今、生成AIが注目されている一方、AIの回答は画一的なものも多いため、その活用方法を含めて議論を一層深める必要があるとのご指摘をいただきました。

説明は以上です。

【教育長】

総務課からの行事予定で、次回の定例会についてですが、7月14日火曜日、午後2時30分よろしいでしょうか。

(異議なし)

【教育長】

では、7月定例会については7月14日火曜日、午後2時30分からと決定いたします。ほかに、ただ今の報告について質疑等ありますか。

(質疑)

【畠山委員】

社会教育委員会議のお話をいただきありがとうございます。

2点あります。1つ目は、協議をされた中で、テーマが2つ絞られていらっしゃると思いますが、具体的な検討課題の中からこの2つが選ばれた理由は何でしょうか。

【生涯学習課長】

以前、委員さんにご説明したと思いますが、3月末に社会教育ビジョンの取りまとめ報

告書が出ていて、その中の後ろのところで、次年度に向けた具体的な検討事項ということで具体的に4つ述べられておりまして、頭の2つは特に、社会教育委員さんに検討していただく課題ということでもありますので、この2つを選びました。

【畠山委員】

上から順番にやっていくということでしょうか。

【生涯学習課長】

そうですね。上の2つというのが、具体的に協議を必要とするものですので、これを重点的にやって、残り2つはメールなどで委員さんに確認しながらできる内容かなと判断しましたので、取り急ぎは頭の2つとなります。

【畠山委員】

ありがとうございます。続いてもう1点なんですが、2つ目のテーマの空白層へのアプローチというのがあり、これはとても大事なテーマだなと思いながら拝見していました。

まず、空白層という言葉自体が初めて聞いたもので、こういう言い方をするんだと思ったんですが、社会教育の文脈の中で一般的な言葉なのかどうなのか、お聞かせください。

【生涯学習課長】

空白層へのアプローチ方法というのは、先ほどの中間報告書の中で挙げられていますが、一般的かと言われると、たぶん聞き慣れない言葉だと思います。社会教育の中でも、アドバイザー会議の中で語られていることになるので、専門的な方が入っていますので、なかなかまだ一般的ではないのかなと思います。

今、この中間報告書の中には珍しい内容がありますので、これを最終的に3月に公表するときには、もう少し噛み砕いた形で、市民の方に分かりやすいものにして届けなければならないということも一つの課題としてあがっているところです。

【畠山委員】

ありがとうございます。まさに、我々カウンセラーが関わっているのが、主に空白層だなという感じがしていて、この空白層に対してアプローチする、アウトリーチという言葉が正しいのかは分かりませんが、アウトリーチしていくと、場合によっては余計なお世話というか、おせっかいになってしまって、相手は全然望んでいないのに、社会教育は大事だから行きましょうよ、という感じになりがちだと思います。

やはり、段階を経てそうなっているということで、そこには必ず傷付きなり何らかの痛みがあって、もう行きたくないとか、そういう場面には出たくないという思いになっていると思うので、そういう方々に対してどんな風にアプローチしていったらいいのかということを、より丁寧に議論していただきたいなということを感じていました。

【生涯学習課長】

ありがとうございます。アウトリーチのところは社会教育委員さんの中に不登校の関係に専門的な方がいて、具体的にはODS（オープンドアサポーター）を指しているところではあるんですけど、それを踏まえた中でやっていくということですので、このアウトリーチの関係もいろいろな考え方があると思いますので、いろいろ議論しながら進んでいけ

るかなと思っています。

【教育長】

ほかにいかがでしょうか。

【北爪委員】

資料4ページの感想になりますが、SNS等が非常に大きな影響力を持つ時代というのが、本当にそうだなと思っていて、自分の家のこどもや周りの家のこどもを見ていても、タブレットやスマートフォンで、短い時間でいろいろな情報を吸収していて、分からないことがあればAIに聞けばすぐに教えてくれるということで、すごい知識はいっぱい持っているんだけど、そこから実体験に移せるかどうかはもったいないところなのかなと非常に感じています。

私自身、この時期になると農作業体験、田植え体験会をやるんですけど、毎年、すごい興味を持っていただいて、親御さんがこどもたちに体験してもらいたいという想いが、実はすごい強いんだなと感じています。年を重ねるごとに、親御さんの方が体験したことがないから私がやりたいんです、という方もすごい増えてきていて、時代ともに世代も変わってきているんだなということも体感しているので、学ぶ機会のアプローチの仕方というのも、幅広い世代の方に伝わるような方法をいろいろ検討していく必要もあるのかなと思いました。

【生涯学習課長】

確かに体験は非常に大事で、中間報告にもまとめているのですが、今、体験格差というのが広がっているところなのかなと思います。

生涯学習課の中に青少年教育係があり、のびゆくこどものつどいなどもやっているのですが、その中でより多くの大人の方たちが関わって、この体験を提供していただけるよう協力していただいています。

その中で中学生ボランティアというの、地域の方とのつながりの中の一つなのかなと思いますので、当然、SNSを使っていく学びというのが足りないというのも自覚はしていますが、それが正しいかどうかということも難しいところではありますので、SNSもそうですし、体験もそうですし、いろいろな形の中の学びということも、一つずつここに組み込んでいけたらなと思っています。

【教育長】

学びということの中で、AIとかSNSとか、そういったものとの関わりは、体験をどうするかということも含めて、大事なポイントかなと思います。

一方で、周知するうえで、SNSの力は使い方次第だと思いますが、いかがでしょうか。

【渡辺委員】

SNSを使ううえでのリスクみたいなものもあると思うので、その辺が社会的な問題でもあるので、どうすればよいかは分かりませんが、リスク面を超えて有効に活用されるとよいと思っています。

やはり、テーマ2のアウトリーチの方法というところに関して、引きこもりという言葉がありますけど、社会教育という教育だと、学びとか、そこで終わるという感覚があるん

ですが、例えば引きこもりの方たちが、単に学びを得に場に行くとか、得るというだけではなく、引きこもっていて、社会活動の中に入り込むきっかけみたいなものがそういう社会教育の中で得られたらよいと思います。

そうすると、今度は学びの場に収まらずに、雇用の機会を持っているようなところと連携して、学びが雇用につながっていくようになったらより広がる気がしますし、例えば高齢者の方が自己体験を引きこもりの方に語って、高齢者の方も満たされることがありつつも、相互の作用が起こっていくとよいと思います。

今後、専門の委員さんの間でいろいろと協議をされていくということなので、その末路に期待を持っています。

【生涯学習課長】

ありがとうございました。先ほどの雇用の機会や高齢者の関係で、今、専門委員や社会教育委員会の人だけではなく、市役所の中のいろいろな部署にヒアリングしていく予定になりますので、そういう中でいろいろ取り入れられたらと思っています。

【教育長】

社会教育を進めていくうえでも、ほかとのつながりをさらに考えていく必要があると思います。

ほかにいかがでしょうか。

【畠山委員】

私は不登校の子や引きこもりの子の親御さんに会いますが、特に不登校の子の親御さんとお会いするときに、引きこもりを作るのは簡単ですよ、という言い方を良くしています。それは、本人の意向と無関係に、全く無視して親がいろいろなレールを引いたりとか、親がもちろん心配だからいろいろ助言をして、時にはそれに乗るんですけど、本人が決めてやっていることではないから長続きしない。そうすると、傷付いてまた引っ込む、ということが繰り返されていくうちに、徐々にもう何をやっても自分はダメだと思って、完全に家の中に引きこもってしまうということが起こります。

そんなふうに本人の意向を無視して全部やったら引きこもりは作れますよという言い方をするんですけど、ここに書いてあるように、引きこもりの方というのは、そういう段階を経てきてそういう状況になっているので、ちょっとアウトリーチしたからといって出てくるというのは難しい、ほとんど無理だと思います。

私は日本神話の天岩戸の話をよくしますが、あのお話でなぜ引きこもっている天照大神が出てくるかと言うと、周りが盛り上がってすごく楽しそうにしているので、覗いてみようと思えてきます。そういった楽しさみたいなものが学びの中に、今後、社会教育だと特にだと思いますが、ただ正しいことを学ぶだけでなく、面白いなと思えること、自分の興味関心とつながるような学びや楽しさみたいなものが、空白層へのアプローチを考えるうえですごく大事だと思うので、是非それを参考にしてもらえたらと思います。

【教育長】

ほかになれば、以上で質疑を終わります。

以上をもちまして教育委員会6月定例会を閉会いたします。

(午後2時55分)